

特集

もてなしのための リビングルーム

家族とうまく折り合いをつけながら、快適で平和なリビングを作ってきた。プライベートな場所として見れば、納得のいくインテリアである。だが、人を招いたとき、そこにどれほどのホスピタリティがあるのだろうか。自己満足に終わらない、ゲストにも心地よいリビングを意識することで、わが家のスタイルはより一層深まるのではないか。



個性的な2つのテーブルが もてなしに活躍する



(上)リビングとはいえ、通勤が便利な場所にある。アメリカから持ち帰った個性的な家具がシンブルなインテリアに馴染み、(時計)リビングに入ると視線を惹き込む装飾品。「ゲストの顔もまずここにまます(笑)」。ボストンのミュージアムショップで購入。(時計)実際に使っているTarget社製のユニークな電器もアメリカで入手。(時計)ポップな色合いのボストンシンフォニー100周年記念ポスターは作家のサイン入り。



海外留学時代に見つけた家具を大切に使い続けている。住日の昼下がり、お茶の時間に合わせ、来客が集まる藤井さんのリビング。アメリカから帰国し、都心に住まいを構えて以来、週末となるとこうして自然に知人が訪れるという。「来客の多い我が家では、テーブルは丸も四角もどちらも大きめです」。ローテーブル下から座布団がすぐ出てきたり、ゲストの手土産が、サッとキヤビネットに並べられたり、藤井家のリビングは特別な準備がなくても常に「もてなし」がスタンバイする。「ボストンのインテリアショップで入手したキヤビネットは、現在の住まいでもすごく気に入っています」。たくさん引出しが並んでいて整理整頓が簡単、シンブルかつ木目の色調が、リフォームした無垢の床にも合い、堂々



理化学研究所 脳科学総合研究センター 勤務 医学博士

藤井直敬さん(40)
恵子さん(37)

脳科学として研究をしたのち、神経科学の分野へ、38年から04年まで水産マリンバイオテクノロジー工学部でシニアリサーチサイエンティストとして勤務し、その後、産院、保健ジャーナル編集長とともに東京とボストン両都市に住む。近年の著書に『発達科学ライブラリーシリーズ』『平野記』(池田書店)がある。東北大学医学部卒、広島県出身。



(テーブル)カッシーナの大きなローテーブルには便利さがスタンバイする。「このテーブルは大小あったのですが、ソファに乗るほど大きいものになりました。座布団がけったり収まったので、ゲストが多いときに、さっと取り出して重宝しています」(チェスト)ホストのアンティーク家具店で購入した50年代製のサイドキャビネット。隣接などの実用品のほか、テーブルマットやカトラリー、パーティー用の小物類を収納している。キャビネットの上は、パーティーのときはグラスなどのサービススペースとしても使い勝手がいい。

パーティはオークションで手に入れた貴重品を披露する場



オークション自慢のトップバッターは、福井さん。届いたばかりのZMP社製二足歩行ロボット「nuvo」のユーモアたっぷりな動きに、パーティ参加者からは熱心なため息と笑い声が上がる。長崎発祥のサインポールとジェームス・ブラウンのサイン入りフェイェアはどちらも高価のレアものという福井さんご自慢の品。写真右上、着た国際米選手こと土井さんは、90年代のロシア製クリスタルカフスをアメリカのオークションサイトで落札。

DATA

- 設計・施工会社など
ulside (www.ulside.com)
- 築年数
2年(築年数は27年)
- 広さ
約100㎡(総床面積)
- うちリビングダイニングの広さ
約16畳
- 家族構成
夫婦2人+男1子
- 趣味
近接のコレクション、読書
- 家具や小物を購入した店
カッシーナ
ホスト市内のミッドセンチュリー家具店



とした風格を醸し出す。一本脚で天板を支えるノール社の丸テーブルは、座っている人の脚がぶつからず、大人数の集まりにも最適だ。

「アメリカではここは椅子を2脚置いていました。テーブルが丸いと、人が集まってもフレキシブルに座れます」。

通称「チェアリップ」と呼ばれるこのテーブルは、偶然動物先で見つけた。「大学敷地内の瓦礫の山に、白い脚が少しだけ飛び出していて、「まさか!」と思って見てみると、このテーブルでした(BG)。

今も、「チェアリップ」は彼の宝物だ。「入居したときは、ピンクのカーペットで内装もこげこげやしていました。それをリフォームすることで、とにかくシンプルに徹底。個性的な贈りものの家具でも噴染む空間を目指しました」。

名脇役として活躍する

最新製品の機能、あるいは姿かたちの美しき。日常に使っているものでありながら、家電は時にエンターテインメント性も発揮する。もてなし上手たちに堂用の家電を見せてもらい、菓まりの場での工夫や演出の仕方を聞いた。

高橋さん使用

シャープなフォルムの最新テレビは無駄を省いたりリビングによく似合う

最近購入したばかりのハイブリッドのプラズマテレビ「ビエラ TH-42 PX30」は黒とシルバーのカラーが気に入って購入。ひとつ上のサイズと迷ったが、テレビ台とのバランスを考えて42インチを選んだ。「小規模な家まりだと、ダイニングに飾りがあるので、普段はリビング近くで置いているテレビを移動させます。そのときに役立つのが、入庫の際に購入したカッシーナのキャスター付きテレビ台。どの角度からでもキレイに見えるので、大規模な家まりのときに、人があちこち動らばっけていても見やすいところがプラズマテレビのいいところだという。番組表も表示されるので、みんなでチャンネルを選びやすい利点も、6月のサッカーのワールドカップも、集まってここで観戦する予定です。」



高橋さん使用

機能とデザインを兼ね備えたオーディオがゲストにも快適な空間を演出する

普段、仕事から帰って帰ってきたときに必ず聞くパンダとオルファセンのオーディオ「Beo Sound 2000」は、パーティで人が集まるときにも欠かせない。「シャープで美しいデザイン、落ち着いた見た目にはかけ離れたパフォーマンスが気に入っています。また、音質もハイレベルなので、パーティが盛り上がりつつも静かになったときでも、部屋の隅まで心地よく音が届いてくる感じがいい。」よく決めるのはハイパー・ハンコックの「ガーシェインズ・ワールド」やビル・エヴァンスの「ワルツ・フォー・デビィ」など、清らな曲のジャズだ。なかなか馴染みのものに盛り合えなかったオーディオは、リビング・モティーフで購入。1年かけて新築の行くものを探し出した。



高橋さん使用

省スペース性に優れたテレビをデッキから無線LANで楽しむ

「リビングを占拠するテレビボードというのが、どうも苦手」と話す高橋さんは、DVD・CD再生やラジオチューナーを内蔵する自社製のスタンド付きテレビ「FORIS.TV SCシリーズ SC22XA1」をセレクト。DVDレコーダーなどのアタッチメントはソファの下にすっきり隠し置き、無線LANで繋いでいる。「アンテナはテレビの背面に取り付けています。このテレビのおかげで、部屋が広々と使える。奥様が多い我が家にも、ぴったりだと思えますよ。広々としたリビングでは、愛らしい強がりでなく、ニューフェイスのロボット「nuvo」(ZMP社)が歩き回ってパーティを楽しく盛り上げてくれる。」



自慢の人間

趣味で始めた画像編集が 集まりのイベント性を引き立たせる

ジャズのDVDだけでなく、旅行先で撮ったデジタル写真などをMacのパソコン上で「iPhoto」のソフトを使って編集し、DVDに焼いて一緒に旅行した友人たちとプロジェクターで見ること、映像と一緒に音楽もCDから取り込み、曲はその登場人物や旅行先の雰囲気に合ったものをセレクト。そんな時にも二人の共通の趣味であるジャズのCDをさりげなく取り入れている。意外にも、どんな素材にも合わせやすく、友人たちの評判もよきとのこと。「結構マメな性格なので、友人の結婚式の写真を編集してプレゼントしたときには喜ばれました」



自慢の人間

ゲストが思い思いに飲みたい味を 入れられるエスプレッソマシン

カートリッジをセットして、ボタン一つでエスプレッソの出来上がり。「時間がかからないから、すぐに次の人の分をばらばら作る。また、たくさんの方が集まるとまよそ、コーヒーのいろいろな味を楽しむ絶好のチャンス。普段はできない飲み比べをしたりして、パーティが盛り上がります」と、藤井さんのリビングには「エスプレッソ D100」がサークルサイドにスタンバイする。スチームがつかないシンブルなものをあえて選んだのは、ゲストをもてなすのに役立つホストの手間をできるだけ省くための策という意味もあるそうだが、「これは簡単に使えますから、職場にも買って置いて使っています」



自慢の人間

いろいろなソフトに対応できる マルチなオーディオシステムをラックに飾る

高品質と美しいデザイン性に惹かれ、ソニーのプラズマテレビ「ビュアビジョン・ブラック PDP-566HD」50インチを昨年1月に購入。パーティでは、番組の邪魔にならないよう、チャンネルをリモコンで瞬間「ディープ・ブルー」などの美しい映像のDVDを流し、リビングの演出を心がけている。ラックにはレーザーディスクを置き、小物をすべて収納してすっきり息せ、PSS、ビデオデッキ、1 Pod専用プレーヤー、ケーブルテレビデッキ、スピーカー4つを備え、さまざまなソフトに対応できるAV機器を取り揃えている。「45番組が見られるケーブルテレビ「イックコム」に加入しており、時にはBSも合わせてMTVなどの音楽番組を流します」



手頃なエレクトロニックダーツが パーティの盛り上げ役として活躍

普段は収納スペースに納まっているエレクトロニックダーツ「ECHO-284C」も、パーティのときにはリビングに移動させてゲストとプレイする。「食事がひと通り終われば、パーティ特製で飲み物をかけて対戦すると盛り上がりますね。いつも酔っ払いメンバーのなかには、マイダーツを持参して楽しむ人もいますから、そのリクエストに応じて置くことにしました。ダーツバーにあるような特製のマシンを購入しようと思いましたが、インテリアの雰囲気を壊してしまうので、むしろ小ぶりなものを購入。値段も手頃なので、いつも10個ほどストックしておいて、遊び終わったあとはお土産としてプレゼントすると喜ばれます」